



専門基礎科目 人文科学系科目

授業科目名	講義等の内容
日本語理解論	文字言語を介した多様なジャンルの文章（説明文・論説文、物語・小説、詩歌、古典）の内容を的確に読み取り、文章の構成や表現の特色を把握する。これとともに文章に描かれた人物、心情、情景、思想等を読み味わう方法を習得する。
日本史概論	日本の歴史を学ぶことは、我が国への理解を深めるのみならず、近隣諸国との関係性を理解する上でも不可欠である。また、歴史を学ぶことで現代を相対化する視座を身につけることも可能となるだろう。この講義では、日本史の全体像を把握することを目指す。
日本文化概論	原始・古代から現代までの我が国で展開した信仰・芸術・学問などについて、歴史学の立場から概観する。過去と現在との相違点・共通点を考えることで、歴史・文化を客観的に捉える力を身につける。
文化人類学	文化人類学は人類の生活様式・活動・思考法を、多様性と普遍性の両面から研究する学問である。本講義では、文化人類学の基礎的概念や理論を学び、多様な世界を対等なものとして捉える視点と態度を身につけていく。
人間関係論	人間関係論では個人と集団の相互作用過程について扱う。特にグループ・ダイナミックス（集団力学）の知見に基づき、日常的な人間関係の内に潜む社会的影響や人間行動の法則性について検討する。また、本講義ではグループ・ワークを通して、対人関係の諸課題を把握し適切な集団運営を行うためのスキルを体験的に学習することを目指す。
日本語表現論	本講義では、日本語でのインプット・アウトプットのスキルを高め、他者とのコミュニケーションを意識した日本語表現力の養成を目指す。具体的には、様々なテーマでのワークショップやディスカッションを行い、テーマについて自分なりの視点を持って考えそれを他者に向けて分かりやすく伝えること、及び、他者の考えを自分なりに咀嚼し理解することのトレーニングを行う。
世界史概論	本講義では、先史から現代までの世界の歴史を扱う。歴史的な事象を現在とは断絶した出来事と捉えるのではなく、その繋がりに注目する。現代に繋がる世界の歴史的経緯や体系について多角的・創造的に捉える力を養う講義内容となっている。
比較芸術論	芸術とは、その社会の構成員の様々な経験や思想を何らかのカタチで表出したものである。本講義では、音楽芸術（舞台芸術、聴覚メディア作品）を取りあげながら、受講生の感性を育むことを目的とする。各文化圏における政治・経済・宗教・言語・民族等の関わりが、音楽芸術の成立にどのような影響を与えたかについて考える。

授業科目名	講義等の内容
比較宗教論	世界各地で信仰されている宗教を比較することで、それぞれの特質を明らかにする。各宗教の教義の概要やなりたち、発展の歴史、さらには現代社会における状況などについて、複数の宗教間の関係性や比較の視点を織り交ぜながら解説する。教義の違いというだけでなく、宗教を取り巻く社会状況も含めた広い視野からみることで、現代社会における宗教問題に対する理解を深めるとともに、宗教とはなにかについて考える。
初級英作文	この授業は、英語の文章の基本的な構造と、書き方を導入する。学生は、5つの過程（ブレインストーミング、アウトライン作成、初稿の作成、ピアレビュー、また最終稿の作成の方法）に分けて、英語での文章の書き方を学ぶ。各週の創作的な書く活動に加え、ポートフォリオを作成し、学生は自分のプロGRESSを記録していく。
中級英語オーラルコミュニケーション	このコースでは、学生は、個人、ペア、グループの活動で英語を練習し、英語のスキルを伸ばし、流暢さを育成する。学期を通して、学生は、プレゼンテーションのスキルを習得する。このコースでは、生徒は英語を話す、聞くことに、特化したオーラルコミュニケーションのスキルの育成の他にも、読む、そして書くことも練習する。
中級英作文	この授業は、英語でのフィクションライティングの方法を学ぶ。学生は、面白いキャラクターをどのように設定するか、またどのようにストーリーを展開するかを学ぶとともに、効果的なダイアログを作る方法を学ぶ。また、学期を通して、学生は、学生同士でピアレビューを行いながら、1000字程度の短いフィクションを作る。
英文法	本科目は英文法の中級レベルテキストを用いて学習する。英語を読み、聞き、書き、話し、発表する際に必要な英文法の知識を身につけ、丸暗記ではなく「実践的な英文法」の概要を示す。具体的にはテキストの英文法項目を解説しその内容を理解した上で、問題を解きながら要点理解度を把握する。
漢文学概論Ⅰ	本講義では中国古典文学または漢文学について、漢詩を中心に講義を行う。中国文学史の大まかな流れを確認した上で、近代詩の成立する唐までの代表的な詩を鑑賞し、それぞれの詩の特徴を時代背景とともに捉える。さらに、「琉球漢詩」を鑑賞し、琉球における漢詩文化を確認していく。
言語と文学	「ことば」を研究するということはどういうことか。本講義は、「ことば」のなかでも言語学と文学を研究対象とする教員によるオムニバス形式の講義である。この講義では、「ことば」を専門に勉強をしていくために必要と思われる知識や技法を身につける。またこうした研究の最新の動向を伝えるものともなる。「ことば」を学ぶ基礎的な訓練をしていくことを目指す。
比較思想論	東洋と西洋では、その世界観や人生観、あるいは自然観や人間観などその基本的な思惟様式において顕著な相違が認められる。本講義において、それを人間的類型の相違というよりも、文化的類型の相違として明らかにしたい。又、決して東西の文化や思想の優劣や是非を論じるものではない。

授業科目名	講義等の内容
経営統計学	入門レベルの統計学の知識を用いて、経営に関連する事柄を学ぶ。統計学はデータから分析対象の状態の記述、全体から一部を抽出、抽出データから全体の状態の推定、仮説を検証する。経営統計学では、経営に関連する統計処理を学ぶ。製品の品質バラツキ、抽出データから全体の質の推定、2つのグループ間の比較などである。
観光学概論	本講義では、観光学を学ぶために必要となる基礎的な知識の理解と習得を目指す。観光は多様で複合的な人間行動であり、その産業は様々な業種から構成される裾野の広い複合産業である。世界各地においても多様な観光資源が、多種多様な旅行者を惹きつけてやまない。本講義では、(1)観光学基礎の理解、(2)観光旅行者の視点、(3)観光デスティネーションの視点、(4)その他観光を取り巻く環境について理解を深めることとする。とりわけ、沖縄においてはその立地条件や自然資源により観光を学ぶ適地であるので、適宜、沖縄の事例を通して観光産業について修学する。
地域研究方法論	本授業では、「地域」を主として外国の地域を中心に据えながら、①国際関係学における地域研究（＝外国研究）の方法論について検討し、②足元の地域と海外の地域を比較し、フィールドワークを行った成果を通じて、普遍的に「地域」を把握し、研究する手法を学んでいく。
社会調査法	この授業科目は、現地調査やアンケート調査によって科学的データを収集し、分析し、意思決定する技術を身につけることを目的とする。具体例をまじえて調査計画、調査票作成、対象者の選定、実施に至るまでのプロセスについて受講者の参画を積極的に求め、社会調査の基礎と実際について理解を深める。
経営情報論	現代の企業は厳しい競争環境の中で生き残りをかけた戦略を展開しており、経営情報システムはますます重要になってきている。企業や組織においては、急速に進歩している情報技術やインターネットの活用を行い、競争の優位性を達成することが重要な課題になってきている。当講義では経営情報論の基礎理論から入り、経営情報システムについて学習し、さらにインターネットによるビジネスや、最新の情報技術についても学習する。
地域社会論	在日韓国・朝鮮人は日本における最大のマイノリティ集団の一つである。当該社会は、一方では世代交替の課程で在日韓国・朝鮮人としての固有のエスニック・マーカーとなるものを衰退させながら、他方ではマジョリティ社会である日本社会への適応の度合いを深めているのが現状である。この授業では、当該社会の形成過程の歴史を入念に辿りつつ、特に、在日若者世代の揺れ動くアイデンティティの現状にスポットをあてて学ぶ。
社会心理学	この授業科目では、同調行動や援助行動などの著名な社会心理学的研究の成果を「道具的適応」という観点から捉え直し、なぜ人間の心に「社会性」が備わっているのか、その必然性について論証する。また、専門用語及び研究方法についても具体例をまじえて解説し、社会心理学の現状と課題を学ぶ。

授業科目名	講義等の内容
経済学総論	経済学総論は、経済学を俯瞰的に学ぶ。具体的には、経済学の成り立ち、時代変化と理論発展との関連、経済理論の限界との関連性、仮説と検証等である。具体的には、基礎科目であるミクロ経済学、マクロ経済学、金融論、財政学、経済史及び経済思想の簡単に学ぶ。続いて、基礎科目と発展科目の関連を学ぶ。具体的には、ミクロ経済学と国際経済論、ゲーム理論、マーケットデザイン論、行動経済学、マクロ経済学と地域経済学と産業連関論を学ぶ。応用科目では、産業組織論、経済地理学、空間経済学、経済政策、公共政策、社会政策、多国籍企業論、国際金融論、国際貿易論などを学ぶ。
倫理学	古代ギリシア・ローマといった西洋古代の倫理学を中心に扱う。この時代に花開いたアイデアは現在でも我々の思考の土台になっている。また、倫理学が始まった時代だからこそ、思想の背後にある問いの一つ一つが鮮烈で、決して古びることはない。この授業では、一人の哲学者に複数回を費やして、丁寧に倫理思想とその背景にある問いを紐解いてゆく。

専門基礎科目 自然科学系科目

授業科目名	講義等の内容
コンピュータ概論	本講義では、主にコンピュータそのものに焦点を当てて、情報システムにおけるコンピュータのハードウェアや周辺機器、OS、ソフトウェア等の仕組みや概念を理解する。
情報処理論	コンピュータ概論にて学んだコンピュータの基礎知識を基に、情報処理技術者としての知識を得るべく、情報処理全般の社会との関わりについて学習する。具体的には、情報システムの評価・運用と管理、社会における情報システムの考察、企業の業務知識とシステム化の啓蒙、情報ネットワークの種々の視点からの活用法などを学ぶ。
情報化社会論	情報化社会で仕事をするには、専門的な情報技術だけでなく利用者目線、業務、ビジネス、技術者倫理といった情報の社会的な側面についての知識も不可欠である。本講義では、「データ・情報・知識をどのように処理、管理したら良いか」という視点に立ち、広い分野ではあるが基本的な概念を学習する。
自然保護論	いまや自然環境の保護・保全、生物多様性の保全及び持続可能な利用を図ることが国際的に重要視されている。これは、人間の活動がいかに自然環境を改変し、資源を消費し、廃棄物を放出してきたかを示すものである。本講義では、自然の実体についての理解を深め、自然保護について議論していく。主に沖縄の事例を示し、地域の自然、現状等の理解を深めることも目的とする。
沖縄の天然記念物	生物を含めた貴重な自然物には、天然記念物として法的に保護されているものが多い。沖縄では、自然の構成要素の多様さやユニークさから、特色ある生物や生物群集及び地質・地形が少なくないが、島の面積が小さい割には国内他地域に比較して数多くの天然記念物が指定されている。それらの天然記念物を学ぶことは、「おきなわ」を理解する有効な方法の一つである。この講義では、沖縄の天然記念物を主たる対象として詳しく学習すると共に、その現状と課題を考察し、発展的で有効な活用と保護について共に考えたい。

授業科目名	講義等の内容
島嶼環境論	主として自然地理学、地形学、地質学、水文学、気象学等の観点から島嶼環境の特徴を概説する。その上で、島嶼における人間活動との相互作用と、それによって生じる環境上の諸問題について講義する。これらを通じて、島嶼地域における望ましい人間と環境とのあり方について解説する。
情報と職業	本講義では、情報化社会において主体的に参画することができるような人材を育成することを目標とする。すなわち、社会人として自らの職業を考えるにあたり、情報と職業の関わり方、職業倫理の一環としての情報モラル等を包括した健全な職業観や勤労観を育成する。なお、「情報」の教員免許取得予定者は必須の講義である。

授業科目名	講義等の内容
沖縄の社会	琉球・沖縄社会の成立及びその構成要素について理解を深めること、また県内各種試験やご当地検定等で沖縄に関する基本的事項について答えられる力を身につけることを目的とする。琉球・沖縄社会を理解する上で重要な琉球方言やグスク（城）、ウタキ（拝所）、オモロ（神歌）、エイサー、組踊、沖縄ソバなどといった文化要素についても概説する。
沖縄の社会と教育	授業では、戦後の沖縄の地域社会の変貌を見据えつつ、学校や教師、地域における教育の変化について概説するものである。教員養成制度として機能した沖縄文教・外国語学校や教育委員会制度、学校・教師・地域の連携活動としての教育隣組や子ども会の結成と普及、昨今の沖縄の教育・福祉をめぐる諸問題（学力問題、平和教育、教科書問題、貧困と格差の問題）についても視野に入れる。
沖縄地域文化論	奄美から八重山までのいわゆる琉球文化圏には、たとえば古謡・三線民謡といった音楽文化、八月踊りやシヌグ・ウシデークといった民俗芸能文化、琉球語とも称される方言文化、宮古・八重山上布、ミンサー織といった染織文化などが根付いている。これらの民俗・文化事象について、現地実習沖縄コースやゼミなどの具体的事例を紹介しながら概説する。
沖縄の地域史	沖縄県における地域史編纂の具体的な実践事例を通して、沖縄の地域史に関する理解を深めつつ、同時に地域の歴史や文化を後世に継承していく実践の意義についても考察を深める。
日本の歴史Ⅰ	日本は古来より海外との交流を通して、政治体制を整え、文化を育んできた。そのため、日本の歴史を理解する上では海外との関係の歴史（対外関係史）の視座が不可欠である。この講義では、前近代の日本国内の政治・社会の状況を対外関係史と関連づけながら、日本史への深い理解を目指す。
日本の歴史Ⅱ	本講義では、近現代の日本の歴史を扱う。政治・外交・文化といった側面から幕末以降の150年余の歴史を見ることで、私たちが生きる今の日本がどのように形成されていったのかを知り、世界の国々との現在の関係がどのようにして築かれてきたのかを学ぶ。
日本史史料講読	史料とは歴史研究の素材となるもののことで、文書、遺物、伝承、建築など様々なものを含む。この講義では、それら史料のうち、古文書、古記録（日記など）、絵図などを主にとりあげる。史料の読解を通して、歴史を暗記するのではなく、歴史を考える楽しみを知ってもらいたい。なお、史料の読解に必要な漢文の読み方についても、若干の解説を行う。
日本の社会	本授業では、社会学の知見を基盤にジェンダー論の視点から日本社会を読み解く。身近な人間関係（恋愛や家族）、教育、労働、国家など様々なトピックを取り上げる。ジェンダー論の基礎概念を理解すること、日本社会で起きている社会現象についてジェンダー論の概念を適用することに関心を持つこと、ジェンダー論の概念を使って日本社会で起きている社会現象を説明することができることを到達目標とする。

授業科目名	講義等の内容
日本の宗教	日本に現在行われている宗教・信仰について概観する。それぞれの宗教がどのように生じて、どのような内容の下、どのようなものを生み出してきたのか、またそれぞれがどのように関連しあっているのかについて、とくに民俗学的・宗教社会学的立場から解説する。
地誌学	地誌学とは地理学の一分野であり、地域を自然、歴史、文化、生活などの観点から「総合的」に把握・記述し、各事象の複雑な関係性の中から地域特性を理解する学問である。この講義では日本の自然的、人文・社会的諸特性を概観したあと、各地域の自然や歴史、文化、風土、観光を地図や図表、写真等を多用し説明する。
自然地理学概論	現在の地球はどのような歴史的変遷を経て成立してきたのか。地球の誕生からプレートテクトニクスによる大陸の離合集散、第四紀の氷河性海水準変動、自然環境と人類の関わり合いの歴史を通して学ぶ。自然環境の具体例として、日本列島の火山、山と川、森林などの「風景」が、どのようにしてできたのか理解する。また、自然環境の開発と保全、災害、資源利用など、自然と人間の関わり方について学ぶ。現在の沖縄の自然環境と、その開発・保全の問題についても考えていきたい。

専門発展・応用科目（国際文化系科目）

授業科目名	講義等の内容
アジアの歴史	海域という視点から、東南アジアを中心としたアジアの歴史を講義する。前半は前近代の海の交易世界をとりあげて様々な地域との間の文化、人間、商品の交流により、多様性を持った社会が形成される過程について論じ、後半には近代の植民地化により現在の国境線がひかれ、そこから言語や宗教を異にする多くの民族が共存する国家が形成される過程を論じる。
アジアの文化	アジアにおける異文化理解のスキルを学ぶ。前半は移民社会台湾の事例を主軸にアジア文化への理解を深め、後半はアジア間の国際交流の事例から異文化交流のテクニックと課題を読み取る。これらを通じて、異文化アジアとの向き合い方を考察し、友好を深めていくための技能を身につける。
アジアの文学	アジアの中国語圏、朝鮮語圏、イスラム・ヒンズー文化圏の文学作品に親しむ。ノーベル文学賞受賞者の作品や古典および近代の詩、短編小説、エッセイ、映像化作品などを閲読、鑑賞し、解説を加えたうえで、グループディスカッションを行う。これらを通じて、作品が何を表現しているのか考察するとともに、作品内で使われている表現方法について学んでいく。
アジアの言語	東南アジアを中心としたアジアで話されている言語について講義する。東南アジア社会の特徴はその多民族性にあり、言語もまた多様である。音韻や文法など、諸言語の基礎的な特徴にくわえて、言語の使用状況や社会における位置づけ、国家との関係など、さまざまな角度から言語を論じることで、東南アジア地域の理解につなげていく。

授業科目名	講義等の内容
アジアの宗教	東南アジアを中心としたアジアの宗教について、教義、歴史、国家との関係、人々の生活とのかかわりなどを多面的に解説する。東南アジアでは、仏教、イスラム教、キリスト教といった世界的な宗教にくわえて土着の多様な信仰が混在しており、重層的な構造を持っている。各地の宗教状況を概観して地域についての理解を深め、東南アジア社会の多元性について考える
アジアの政治と社会	アジアの政治と社会を理解し、多文化共生社会の実現について考察する。アジアはヨーロッパ人が創った地域概念であり、もともとアジアに一体感はなかったが、欧米からもたらされた近代化のインパクトによって同時代的な転換が起こり、現代アジアの政治・社会の仕組みが成り立ってきた。これらを理解するためにアジア各地域の近代化、グローバル化の受け止め方を見ていく。
中南米の歴史	本講義では、中南米諸国の歴史を古代文明、植民地時代、独立以降と大別し、通史的に学んでいく。また、大航海時代に世界各地へと乗り出したヨーロッパ側の視点も踏まえ、植民地時代の支配と従属の関係、奴隷制度など、中南米地域が政治・経済の世界システムへと組み込まれていった背景を考察する。
中南米の文化	中南米地域の現状を理解するうえで文化は重要なテーマである。一見すると研究するに値しないと思われるような社会事象の中に表出する当該地域の歴史、政治、経済、宗教、民族、思想などの背景を読み解いていく。
中南米の社会	中南米地域には、先住民、ヨーロッパ系、アフリカ系、ユダヤ系、日本を含むアジア系など、多様なルーツを持つ人々が暮らしている。植民地時代からの影響で、人種・民族と社会階層・居住地域が密接に関係する特殊な状況がある。本講義では経済格差、教育格差、都市と地方などをキーワードに、中南米社会の実情を学んでいく。
中南米の文学	前史にあたる先スペイン期の先住民の神話から、近現代に至るまでの中南米の主要な作家や文学作品について学ぶ。また、インディヘニズムなど、文学だけでなく当該地域の社会・政治にも影響を及ぼした思想など、作品が生み出された背景も理解していく。
中南米の言語	中南米地域の多様な言語状況、及び言語と関連する諸文化について学ぶ。先住民言語、ポルトガル語、スペイン語、クレオール語、移民による言語実践、多様な文化やその越境現象について学ぶ。
移民と異文化	海外には多くの日本移民とその子孫が暮らしている。その多くを占めるのが沖縄にルーツを持つ人々である。日本移民が移民国において異文化と接触しながら生活してきた経緯を説明し、移民と日本・沖縄とのかかわりについて理解を深める。移民を送り出した日本社会の歴史的背景を考察し、現在のグローバリゼーションの中で日本・沖縄が果たす役割を考えていく。
比較映像文化論	今日では、オンラインによる動画や音源は最も強力な伝達手段と考えられている。映像は、文学・演劇・オペラ・音楽の（抽象具象を含む）諸芸術領域を連結する媒体である。本講義では、世界の国々の映像作品の紹介を通して、それを育んだ社会や文化、時代特有のメッセージ性について考える。鑑賞後の討論や分析を通して異文化を理解することが本講義のねらいである。

I 建学の精神

II 学修について

III 履修計画の作成と登録制度

IV 教養教育について

V 国際学部の概要

VI 国際文化学部の概要

VII 国際科目の概要

VIII 留学・資格等

IX 諸手続き

X 学則・諸規程

XI 付録

授業科目名	講義等の内容
世界の歴史	主として15世紀から19世紀のヨーロッパの歴史を取り扱い、史資料の読解能力と歴史的事象の意義の理解の修得をめざす。史資料の分析・読解に基づいた世界史の知識の修得とともに、歴史的事象の意義に課する深い理解が求められる。

専門発展・応用科目（国際学系科目）

授業科目名	講義等の内容
国際関係論	本講義は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国の国際関係を考察する。アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際情勢を、政治外交、経済協力、地域機構、民主化、社会変動、領土問題、安全保障といった多角的な視点より考察する。
国際政治論	過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において「地球規模のスケールをともなった相互接続（Globalization）」が顕著となってきた。本講義では、Globalizationをキーワードに国際政治の動向と問題点を、実例や理論を通して深く考察する。
国際機構論	国際連合は第二次大戦後、再び世界大戦を起こさない目的で創設された国際機構である。グローバル時代の今日、国際機構の役割について学ぶ意義は大きい。国際機構が誕生した歴史的環境、組織の内容及機能、課題と改革案などについて学ぶ。特に日本の安全保障理事会常任理事国入りなど国際社会における日本の役割も取り扱う。
国際法	伝統的に国際法とは、国際社会における国家間関係を規律する法、とりわけ、戦争と平和に関する法として理解されてきましたが、第二次世界大戦後、海洋、宇宙、人道、経済、環境といった領域で人類共通の利益を実現するための国際的規範が形成されています。本講義では、国際法の基礎を学習することで国際関係を「政治」や「力」の論理だけでなく「規範」や「法」の論理から多角的に分析・理解する能力を養います。
アメリカ政治外交論	本講義では、建国から現代までのアメリカ合衆国の政治と外交を、いくつかの政策例を紹介しながら時系列的に考察する。特に、外交の基層部分をなす理念や思想を意識することで、アメリカの政治と外交の特徴や性質を明らかにする。アメリカ政治外交の理解は、沖縄社会の平和と繁栄の将来を構想する上で欠くことのできない重要な課題となっている。
日米関係論	東アジア地域の国際環境の劇的な変容に呼応するように、日本の外交・安全保障政策の基軸である「日米関係」も近年大きく変化してきている。本講義は、戦後の日本が諸外国と構築した二国間関係の中で最重要と位置づけられる「日米関係」を包括的に分析する。

授業科目名	講義等の内容
英語音声学	英語の音節構造についての知識を深め、音声の出し方について学ぶと共に、実際に声に出して練習する。具体的には、英語の子音と母音にどのような種類があり、どのように発音されるかをまず学ぶ、次に、音声をどのように認識するかについて学ぶ。具体的には、英語の音素、音節、ストレスについて学ぶ。
言語学概論Ⅰ	研究対象として見る「ことば」に関する言語理論を概説する。まず、幼児の母語言語獲得の仕組みである第1言語獲得理論の基本概念を考察する。更に、発声のメカニズムを探る音声学、音調などを扱う音韻論を概説する。次に単語成り立ちの仕組みである語形成・形態論を取り上げる。最後に、言語の構造を分析する研究分野である統語論の基本概念を解説する。
言語学概論Ⅱ	言語学概論Ⅰに引き続き、「ことば」を研究分野として考察していく。まず、単語や文章の意味、単語の意味の変遷、法助動詞の意味と用法、現在、過去時制、完了相、進行相などを扱う意味論の基本概念を概説する。次に、言語運用の規則としての語用論の基本概念を概説する。次に、言語使用の具体的な場面を扱う社会言語学を概観し、最後に第2言語習得論を概観する。
理論言語学講読	生成文法理論や他の認知科学に関する文献講読を行い、グループ活動などを通してクラス討論を行う。さらに、さまざまな言語について対照研究の観点から分析を行い、普遍的な法則を見いだすことを目的とする。さらに、認知科学の観点から言語処理や言語知識等について理解を深める。
応用言語学講読	英語の言語的特徴、英語教授法、第2言語習得論、言語政策などについて英語の文献講読を通して理解を深め、教育実習や他の言語教授の場面の基礎となる理論や研究成果を学ぶ。文献研究に留まらず、小学校、中学校、高等学校、大学の各教育レベルにおける社会的関心のある論点などを取り上げ、クラスで討論を行う。講義は講読及びクラス討論を主に英語を用いて行う。
英語学概論	「英語学」に関する概説書を読み、言語現象を分析する能力を養う。まず英語の歴史を概観し、音声に関する音声学・音韻論を概説する。次に単語の形態を扱う形態論を取り上げる。次に、構造規則を扱う統語論を詳述する。次に単語、文章、法助動詞の意味を扱う意味論を概説する。その後、談話をも含めた状況、あるいは話者の意図などを分析する語用論を取り上げる。
小学校英語教育教授論	小学校での英語教授の基礎となる教授法や、児童発達心理学、カリキュラム作成、教材作りなどを学習する。教授法では児童への英語学習に有効な理解能力中心のTPR等の教授法、コミュニケーションを中心とした教授法、オーディオディンガルを改良した指導法等を学ぶ。児童心理学では、ピアジェを始め、代表的な児童発達心理学を学び、年齢に応じた有効な指導法を学ぶ。

授業科目名	講義等の内容
準高等英語リスニング	中級のリスニングの講義を修了した学生が受講する。リスニング活動を通して1分間に聴解できる語数(WPM)を増やし、視覚的な支援などに頼らず理解できるようにする。背景知識を利用し、自然な速度で話されているニュースや会議、講義等をnote-takingができるようにする。1年次と同様に学生のレベルに応じたgraded-listeningを行う。
高等英語リスニング	自然な速度で話される講義やまとまった分量の講演等をnote-takingができるようにする。学術的な英文について英語圏大学1年次対象の教養講義の内容を理解し、留学や学術的講義に備えることを目的とする。授業外で学生のレベルに応じたgraded-listeningを行う。
準高等オーラル・コミュニケーション	中級同様、「聞く、話す」の2技能に特に焦点を当てた英語によるコミュニケーション能力の向上をその目的とする。英語によるコミュニケーションの楽しさを共有しつつ、準高等においては中級よりも話す内容をレベルアップさせると共により正確な情報伝達を目指す。例えば英語によるプレゼンテーションなどを導入し発信力を磨く。
高等英語オーラル・コミュニケーション	日常生活で用いられている英語をナチュラルスピードで理解する。映画等の視覚的な補助を用い、反復して視聴することにより、理解を促進する。所用時間の短い談話やニュース、説明の理解から、所用時間の長い談話の理解ができるようにする。
準高等英語講読	授業を前半と後半に分け、前半は日本語とは異なる「英語の構造」を理解し、英語の読み方を学ぶ。内容を把握しつつ、速読する訓練を行う。英字新聞、雑誌の記事などを教材としてとりあげる。後半は研究対象としての英語、あるいは言語、言語学に関するテキストを読み、読解力を養成すると同時に、言語に関する興味、関心を養い、言語現象に対する理解を深める。
高等英語講読	英語の読み方を学ぶ。英語の速読力を身に着けることを目指し、新聞あるいは雑誌などの記事、エッセイ、を読み、内容を把握する訓練を行うと同時に、語彙力も養成する。また、研究対象としての英語、あるいは言語全般を扱うテキストを読み、読解力を養成すると同時に、言語に関する興味を養い、言語現象に対する理解を深める。
準高等英作文	このクラスは推敲しながらブレイン・ストーミングと要約により、英作文のプロセスに焦点を置き、英語エッセイの基本的な構成を学習する。学生はナラティブ作文や比較の作文を含む様々なジャンルの英作文に親しむ。また、文単位での英文法、基本的な修辭的技法、エッセイの構成法に関する技術を向上させる。このクラスは英語で行われる。
高等英作文	このクラスでは、「準高等英作文」で身に着けたエッセイ・ライティングの能力を更に向上させる。学期末までには、主張、論拠、根拠をもとに議論するための英語の書き方を学ぶ。更に、上級レベルのクラスでリサーチ・ペーパーを書くための準備も行う。受講生は英文法力を更に磨き、更なる自信・説得力を持って英語を書く方法を学ぶ。このクラスは英語で行われる。

授業科目名	講義等の内容
英米文化概論Ⅰ	英国について言語、地理、気候、民族構成、歴史、文化、政治、経済、生活様式や宗教・信条などの概要を時代の変化に応じて文献講読、討論や発表を用いながら学習する。時代は、主に、17世紀からの初期の英国の歴史、18世紀、19世紀のビクトリア朝の歴史、20世紀からの現在までを焦点化する。さらに現在の社会や経済問題やEU、移民などの問題を学習する。
英米文化概論Ⅱ	米国について言語、地理、気候、民族構成、歴史、文化、政治、経済、生活様式や宗教・信条などの概要を時代の変化に応じて文献講読、討論や発表を用いながら学習する。主に、植民地時代、独立革命、19世紀の南北戦争、ベトナム戦争、冷戦、現代の世界的経済危機、テロとの戦い、人権運動などのテーマを扱う。学生の関心がある米国のテーマについて、講義を行う。
英語リサーチ・ライティング	本講義は英語による研究論文執筆の方法や一般的な様式について話し合う。学生は研究の題目を提案し、研究を実施し、1,500語から2,000語の研究論文を書く。英語での論述の過程について学習し、研究における引用や引用の要約の効果的な方法を学習する。このコースは、学生が卒業論文を英語で執筆し、卒業するための事前の講義である。
イギリス文学	このクラスでは、中世、ルネッサンス期、ロマン主義、近代という各時代におけるイギリス文学の代表的な作品を読む。更に、叙事詩、叙情詩、演劇、小説のような英語で書かれる文学のジャンルについても学ぶ。最後に、英語でのクリエイティブ・ライティングの基本を学び、自分自身の文学作品を英語で書くことも試みる。この授業は英語で行われる。
アメリカ文学	ネイティブ・アメリカンの伝統的文学から現代の文学の中で、アメリカの伝統から生じる様々なスタイルの文学作品を読み、それらについて自分の意見を書く。相争う観点からアメリカ人としてのアイデンティティを確立することを試みた作家に焦点を当てる。講義、クラス内のディスカッションでは、アメリカ文学、アメリカ英語にも触れる。このクラスは英語で行われる。
英語文学講読	この講義は、英語で書かれた一つの長編作品（フィクション、詩編、グラフィックナラティブを含む）を読んでいく。講義は、文学的技術を学ぶとともに、文化的側面、美的側面、また歴史的側面を含むディスカッションを含む。学生は、期末や中間課題として、その作品に対して、創作を通してリアクションをするプロジェクトに取り組む。
外書講読	外国語で記された文献等を用いて、各専門領域における理論や事例等を学ぶ。併せて、専門用語や言い回し等を学びながら、各専門領域の理解を深める。本講義は、読解力の向上よりも、各専門領域に関する知識の拡充並びに理解を深めることを目指すものである。また、本講義の受講に関しては、外国語で各専門領域に関する書物等を精読する。
ディベート	準備段階では、論題決定、リサーチ、原稿書きという行程を通して、社会問題に対する意識、情報収集能力、論理力やライティング力などを養成する。本番のディベート試合では、4技能を駆使することで上級者レベルの英語力を総合的に向上させる。

授業科目名	講義等の内容
通訳技法	通訳者養成において使用される様々な技術を学ぶことで英語力を養成する。さらに実際のニュースやスピーチなどオーセンティックな教材を使用して逐次通訳や同時通訳を経験することで上級者レベルの英語力、日本語力を習得する。
異文化コミュニケーション論	異文化、また複数の文化のなかで、他者を敏感に理解する力、また敏感になる力は大切だろう。文化の違いによるコミュニケーションスタイルを、批判的に観察することを通して、自身の文化、また、他者の文化を深く理解することを目的とする。人種、階級、国籍、ジェンダー、宗教などについても、授業のなかでディスカッションを行う。この講義は主に英語で行われる。

専門発展・応用科目（日本語・日本文学系科目）

授業科目名	講義等の内容
日本語学概論	本講義は、日常的に使用している日本語（現代日本語）を客観的に観察し、分析する練習を通して、その仕組みを学ぶ。例えば、次のような質問に答えられることをその目標とする。①平仮名の「ん」で表される音はすべて同じ音か？ ②「読んだ」の「だ」と「食べた」の「た」は違うか？ ③「学校に」と「学校で」の違いは何か？ ④古典日本語と現代日本語はなぜ違うか？
日本言語史	本講義では、現在話されている日本語が、これまでにどのような変化を遂げてきたかを学ぶ。文献に残されたヒントや、様々な地域の方言に隠れているヒントを実際に見ながら、昔の日本語がどのようなものだったか実際に考える。特に沖縄の言語を観察することで、古典文法が現代日本語と切り離されたものではないことを体験する。
琉球語学概論	本講義では、自身が住む沖縄・琉球列島で伝統的に話されている言語が、どのような点で興味深いのか、研究者の視点から紹介する。「沖縄の言語」ではテーマごとに各地の言語特徴を観察した。その知識を発展させ、本講義では、地域ごとに、特徴的な言語現象を観察する。琉球語学にとどまらず、言語学・日本語学の発展的側面を持つ。受講生は、講義毎に提示される問いに挑戦することで、研究とは何かを体験する。
現代日本語論	本講義では、日本語のアクセントについて主体的に学ぶ。アクセントとは、語中の音の高・低、強・弱に関する決まりのことである。日本語の諸方言の多くは音の高・低が語の意味の区別に関係している。本授業では特に東京方言を中心に日本語に観察されるアクセント現象を扱う。毎時間、発音練習と聞き取り練習を行う。各地のアクセントを観察し、規則を発見する面白さ・言語研究を行う面白さを体験する。
日本語教授法	「日本語を教えること」には、様々な要素が絡み合っている。また、教えた後には、「学ぶ」というプロセスが必要不可欠となる。本講義では、外国語教授法、第二言語習得論、日本語の構造等について紹介し、主に「誰に」「何を」「どうやって」という3つの観点から、日本語を「教えること」「学ぶこと」について考えていく。

授業科目名	講義等の内容
日本古典文学概論	“男と女”あるいは“笑い”をキーワードに中世文学における随筆や説話等の代表的作品を鑑賞する。その際、前後の時代、すなわち中古と近世における関連作品も取り上げ、それぞれのジャンルの諸相をおさえつつ、中世文学の特質の一端を読み取る。
日本古典文学史Ⅰ	上代と中古の文学の展開や変化、ジャンルの特質を〈死〉をキーワードとして捉える。また、背景となる歴史の流れ、日本社会・文化の構造も視野にいれながら、それぞれの時代の代表的作品に触れる。文学作品を通じて、その時代に生きた人びとの思想・精神文化を読み解いていく。以上とともに、古典文学を読解する上で必要な知識の習得を図る。
日本古典文学史Ⅱ	中世と近世の文学の展開や変化、ジャンルの特質を〈死〉をキーワードとして捉える。また、背景となる歴史の流れ、日本社会・文化の構造も視野にいれながら、それぞれの時代の代表的作品に触れる。文学作品を通じて、その時代に生きた人びとの思想・精神文化を読み解いていく。以上とともに、古典文学を読解する上で必要な知識の習得を図る。
日本古典文学論	『平家物語』全13巻を各年度1巻ずつ読み解く。『平家物語』は「治承・寿永の争乱」いわゆる源平合戦を主な舞台として、平家の滅びを主題としながら、さまざまな物語が織り込まれている。構想、人物形象、表現、諸本の異同、時代背景(政治・思想)などの問題に関わる先行研究の成果をできるだけ数多く取り上げながら、各巻の内容を精読する。
日本近代文学概論Ⅰ	日本近代文学における代表的な作品(戦後の芥川賞受賞作品)を鑑賞し、その後、対象となる作品、作家について発表及び意見交換を行ってもらう。「小説」を「研究」することとは、「小説」がどのような背景をもって書かれたかを探ることである。また、そのアプローチは隣接する他学問領域の知識を必要とする。その大まかな作業の流れを知る講義となる。
日本近代文学概論Ⅱ	日本近現代文学の「代表作」「問題作」(本講義では国語教育で取り上げられた、問題とされた短編作品)を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、テキスト・テキストの一文字一文字を読む「方法」を知る。具体的には、扱う作品に対して「発表」を行ってもらい、それをもとにして全体との討議を行うものである。
日本近代文学史	日本の社会構造が「近代」に移り変わって以降の文学の変遷をみる。いわゆる幕末から現代に至る150年を対象とし、背景となる歴史の流れや、日本社会・文化の構造まで視野に入れながら、代表的な作家を例示しつつ講義を行う。文学作品を通じて、その時代に生きた人々の思想・精神文化を読み解いていくことを目的とする。
日本近代文学論	明治以降、現在に至るまでの日本近・現代文学に描かれた「救い」について捉え直す。作家が宗教思想をどのように受容しているのか、またその思想をどのように作品化しているのかを把握する。そのために宗教を描く特徴を有するいくつかの小説作品を読むことになる。それら作品を読むことで、文学における「救い」の変遷を見る。

I 建学の精神

II 学修について

III 履修計画の作成と登録制

IV 教養教育について

V 国際学部の概要

VI 国際文化学部の概要

VII 国際科目の概要

VIII 留学・資格等

IX 諸手続き

X 学則・諸規程

XI 付録

授業科目名	講義等の内容
琉球文学概論	琉球文学には、「おもろさうし」をはじめとする、琉球語を媒体とした筆録および口承文芸がある他、和歌・和文を主とする琉球和文学、そして漢詩・漢文を主とする琉球漢文学といった、大きく3つの作品群がある。これらについて具体的作品をとりあげながら、個々の作品の背景や作者、研究史、解釈・鑑賞の方法等について概説する。
沖縄の文学	本講義は、沖縄で書かれた文学・沖縄を描いた文学について学ぶものである。明治以降沖縄県出身作家によって書かれた作品及び日本の作家によって作品化された沖縄像について、紹介しながら概説し鑑賞する。その際、作品世界の背景や、作品が発表された同時代社会の動きに目を配ることに重きを置く。
漢文学概論Ⅱ	本講義では中国古典文学または漢文学について、漢詩を中心に講義を行う。漢文学概論Ⅰでは近体詩の成立する唐までの詩を鑑賞した。本講義では続く宋から清までの代表的な詩を鑑賞し、それぞれの詩の特徴を時代背景とともに捉える。さらに、琉球と中国との関係を確認したうえで、「琉球漢詩」を鑑賞し、琉球における漢詩文文化を確認するとともにその特徴を捉える。
書写・書道概論	書写は、正しく書くという日常的機能性の上に立ち、書道は、美しく書くという芸術的表現性の上に立っている。文字としての正しさも構成の上での端正さも書道の表現美の観点から重要なことであるという点で、書写と書道は深く関係し合っている。この書写と書道との関係に留意して、書道における「表現と鑑賞」に関する基本的な内容について講義する。

専門発展・応用科目（実践科目）

授業科目名	講義等の内容
地域文化演習	地域文化演習は、2年次以降の8月・9月を中心に約2週間前後の日程で実施される「現地実習」（4単位）の事前授業として位置付けられる科目である。従って、当該地域にある国々の地域研究や、職業分野に関する基礎的知識を学ぶ。加えて、研修でのリスク・マネジメントも取り入れて講義する。
現地実習	2年次以降の8月・9月を中心に、約2週間前後の日程で沖縄、日本、アジア（東アジア、東南アジア）、中南米（ポルトガル語圏、スペイン語圏）、英語圏、国際協力、日米関係の各コースにわかれ、集中講義などを含めた実習を行う。各地域や職業分野について座学だけでは学ぶことができない実体験を通じての理解を深く身につけることができる。
教育支援演習	教育支援演習は、3年次の8月・9月に約3週間前後の日程で実施される「教育支援実習」（4単位）の事前授業として位置付けられる科目である。現在の教育現場で取り上げられる課題や、問題などについて、それぞれの専門の教員が講義を行い、授業後半では、学生それぞれの実習校について、事前の調べ学習を行う。

授業科目名	講義等の内容
教育支援実習	3年次夏季休暇8月、9月を利用して、約3週間の日程で、北部地区の学校（小学校、中学校、高校）で教育支援実習を行う。学校現場を体験し、大学の教職課程では学べない学校の組織、学校が抱える諸問題、実践的な教授法等を理解する。実習中は、実習生は、授業の補助、授業観察、学習支援などに従事する。
日本語教育実践演習	「日本語教授法」で学んだ基礎的な知識・考えを基にし、日本語授業における事前準備の内容、授業の組み立て方、またその際の留意点などについて学ぶ。実際の授業を観察したり、日本語学習者に対して模擬授業を行い、振り返りを行うことで、実践的な力を身につける。

専門発展・応用科目（特別講義）

授業科目名	講義等の内容
国際学部特別講義	国際社会で活躍している研究者や実務家を広く学内外から招聘し、学際的な研究事例、最新の社会動向などについて紹介する。なお、開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際文化特別講義Ⅰ	国際文化学科に関わる専門研究領域の研究者を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際文化特別講義Ⅱ	国際文化学科に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、自国の文化や異文化への理解を深めるための講義を提供する。なお、開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際文化特別講義Ⅲ	国際文化学科に関わる専門研究領域の研究者を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際文化特別講義Ⅳ	国際文化学科に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、自国の文化や異文化への理解を深めるための講義を提供する。なお、開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。

演習科目

授業科目名	講義等の内容
国際文化基礎演習	国際文化学科学生を対象としたガイダンス科目である。オムニバス講義・演習により、中南米、アジア（東アジア・東南アジア）、沖縄、日本の4つの地域の地域研究と、それらを越えた領域としての国際学、言語学・文学（英語・英語文学、日本語・日本文学、琉球語・琉球文学）、教育学についての紹介を行う。本科目では、国際文化学科で扱う領域についての基礎的な理解を目指すと共に、ゼミ活動を行う上での研究姿勢を身につける。

授業科目名	講義等の内容
国際文化専門演習Ⅰ	演習指導教員のもと、国際文化系学問の研究領域に関する文献・資料を検索・講読しながら実証的研究の基礎を修得する。さらに収集した文献・資料を批判的に読み解き、理論・仮説を組み立てる方法を修得して、各自の専門研究領域を選択する。
国際文化専門演習Ⅱ	国際文化系学問に関する先行研究や理論を体系的に収集・理解・整理し、専門研究領域における自己の問題意識の位置づけを明確にする。さらに指導教員・ゼミメンバーとのディスカッションを通じて、自己の論理構成に飛躍や矛盾がないかチェックしながら卒業研究に必要な力を身につける。
国際文化専門演習Ⅲ	演習を通して、研究の目的・独自性・倫理性・手法の妥当性・実証性といった点への理解を深め、卒業研究開始のための準備を進める。卒業研究のテーマに向けて、自身の関心のある事柄について調べ、報告する。
国際文化専門演習Ⅳ	卒業研究のテーマを決定し、資料の収集を開始する。決定したテーマは卒業研究テーマ発表会で報告し、必要に応じて修正を行う。また、先行研究を精読した上で、卒業研究で扱う「問い」を明確にし、論文の執筆を開始する。
国際文化専門演習Ⅴ	指導教員やゼミメンバーとのディスカッションを通じて、資料の不備や分析・考察の妥当性などを検討し、自身の卒業研究の質を高める。完成した成果物（卒業論文）の内容は卒業研究最終発表会において報告する。